

タイ国ラヨン県の小型沿岸漁業の操業海域

- 江幡恵吾（鹿大水）・Anukorn Boutson（カセサート大学）
工藤尊世・有元貴文（海洋大）
Nakaret Yasook・Isara Chanrachkit（SEAFDEC）

【目的】タイ国ラヨン県では、刺網、かご、釣り漁業などの小型沿岸漁業が行われており、10月から4月までのモンスーンの影響を受けない時期には定置網漁業が行われている。モンスーン期、非モンスーン期での操業条件の変化を明らかにするために2012年11月から調査を開始した。本研究ではカニ刺網、魚かご等の操業海域について分析を行った。

【方法】2012年11月からカニ刺網、魚かご、釣り漁業を行なっている合計12名の漁業者に操業日誌を配布して、毎日の操業について記録してもらうように依頼した。操業日誌の記録内容は、(1)漁業種、(2)操業回数（刺網、魚かごでは揚網回数）、(3)乗船者数、(4)魚種別水揚量および水揚金額、(5)出港・帰港時刻、(6)燃料購入量、(7)出漁しなかった場合にはその理由の7項目である。漁業者の漁船に小型GPS（GT-600）を取り付けて、出港してから帰港するまでの漁船の位置を3分間隔で連続記録して、漁港から漁場までの移動距離、操業海域の位置を測定した。タイ気象庁ラヨン支局から3時間毎の風向、風速、風浪階級に関するデータを入手して分析に用いた。

【結果】2012年12月～2013年1月の風浪階級は0～3で、ほとんどが平穏な状態であった。1航海（日帰り航海）で揚網する漁具数は、魚かごで2～4個、カニ刺網で3～7個で、操業海域は漁港からそれぞれ2.4～2.7海里、3.1～5.1海里離れたところで、漁具の設置間隔は0.7～2.2海里、0.6～1.5海里であった。